

女性リーダー @ 福井 ③

心柔らかな「負けて勝つ」

女性リーダーという「鉄の女」「強い女」のイメージが先行します。でも、「強い」より「かわいらしい」を好むことの多い女性には、必ずしもなじみません。無理に強さを求めず、女性らしい柔らかさを備えたリーダーでも、いいのではないのでしょうか。

企業研修会社社長

山内 喜代美さん

的に参加しましたが、県内開催には行けなかったんです。分からないことがあるのを顧客に知られるのが嫌だったんですよね。

3年目くらいに「負けて勝つ」やり方が身に付いてきました。仕事の数をこなして自

信もつき、相手の意見を認められるようになりました。それを踏まえて、私の思いを徐々に浸透させていくんです。強気で押すだけでない、様々な伝え方があることを知りました。

女性で良かったと思うこと

はあります。お堅い幹部陣相手の研修でも、ほほ笑みながら話せば厳しいことでも自然と聞いてもらえます。仕事の依頼では、男性経営者が「ちょっと恥ずかしいのですが」と本音で悩みを相談してくれるんです。

女性向けの研修をしてきて思うのは、女性の力を引き出してあげる人が、まずは必要だということです。特に福井の女性は、自分の意見を言わない人が多いですが、「何でもいいよ」と言えば、驚くほどしゃべってくれます。うまく質問して調整すれば、ちゃんと結論にたどり着けるんですよ。

男性のいた空きポジションに女性を充てるのでなく、女性ならではの良さとしがちな方を知ってもらうことが大切です。男性と女性が縦糸と横糸になって、より良い社会を織りなしていく、私もそんなお手伝いができたらと思います。



やまうち・きよみ 1971年生まれ、県立高志高、産能短大卒業。20歳で日本生命に入社し、営業部に配属、後に新人教育で実績を上げる。出産を機に退職し、人材育成会社に入社。37歳で社長となり、2010年に新たに企業研修会社「ドリームワークス」を設立する。女性リーダー養成など様々なニーズに応じた研修を提案。高校1年と小学4年の息子がいる。